

**ロジスティクス環境会議
第4回委員長ミーティング 議事録**

I. 日 時：2005年11月10日（木） 15：30～17：30

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：10名

IV. 内 容：

- 1) 各委員会の活動経過
- 2) 第3回本会議における企画運営委員会からの提案の進捗状況について
- 3) 第1期ロジスティクス環境会議の活動成果（予定）について
- 4) 第1期で積み残したテーマおよび第1期末着手のテーマについて

V. 開 会

事務局の徳田の司会進行のもと、以下のとおり議事が進められた。

1) 各委員会の経過報告

事務局より、資料1-1に基づき、各委員会の活動経過について報告が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見】

委 員：資料1-1の右列については、2005年3月に策定した活動計画と現時点での活動経過を分けて記載すべきではないか。

事務局：ご指摘のとおり、修正する。

委 員：2005年3月に策定した計画に対しての進捗状況について教えていただきたい。

事務局：下記のとおりである。

①環境パフォーマンス評価手法検討委員会

- ・『二酸化炭素排出量按分ガイド／トラック輸送版』（仮称）→これから着手する
- ・『包装資材の環境負荷排出量算定ガイド』（仮称）→次期活動に見送る
- ・『CGLメンバー企業の二酸化炭素排出量算定データ集』（仮称）→作成中

②源流管理による環境改善委員会

『ロジスティクス源流管理マニュアル』のまとめとして

- ・抜け漏れと文章や図表等の見易さ等の確認および改善→作成中
- ・モーダルシフト対応のマニュアル→作成中
- ・荷主企業のロジスティクス・物流部門から企画・設計、生産、販売、環境等の他部門への協力要請する内容のまとめ→次期活動に見送る

③省資源ロジスティクス推進委員会

『省資源ロジスティクス推進ガイドライン』（仮称）→着手中だが、進捗は遅れている。

④リバースロジスティクス調査委員会

- ・家電・OA機器、自動車→着手中で、何らかの問題点は出せる見通し。
- ・食品、物流（包装資材）→着手しているが、仕組みの実現可能性の評価が難しい。
- ・廃掃法の課題→休止中。メンバーから意見を集めたが、整理ができておらず、環境省との情報交換も実施できていない。

⑤共通基盤整備委員会

- ・『用語集』→完了し、ホームページで公開中
- ・『URLリンク集』→完了し、ホームページで公開中
- ・『関連法規の体系（WEB版）集』→完了し、ホームページで公開中
- ・『環境に関する国際動向の調査レポート』（仮称）→未実施
- ・『企業の環境報告書作成ガイド（基本フォーマット）物流サブセット版（仮）』→着手中
- ・講習会（セミナー）の開催（2回／年）→第1回講習会、7月28日（木）開催
- ・研究会の開催（1回／原則毎月）→実施中

委員：来年4月に施行される改正省エネ法への対応のためには、二酸化炭素排出量の按分ガイドが必要になるのではないかと。

委員：本年度のLEMSの着手が遅れたため、まだ未着手である。また、本来LEMSで検討したものをCGLにおいて実現可能性を実証することが理想であるが、実証する時間はない。

委員：源流管理については、改正省エネ法の荷主判断基準の内容を具体的に実施する際のマニュアルとしての完成イメージを持って検討をしていたが、そこまでには至っていない。

委員：共通基盤整備委員会で進めている環境報告書のガイド作成にあたって各社の環境報告書を調べているとのことであったが、環境パフォーマンスの算定方法や按分方法などについても確認しているのか。

委員：環境パフォーマンスが定量化されているかどうか、また算定方法が記載されているかどうかを確認するにとどまっている。現時点では、定量化されている割合が1割程度である。

委員：結果は公表するのか。

事務局：公表する。

【決定事項】

- ・資料1-1の右列の構成を変更する。

2) 第3回本会議における企画運営委員会からの提案の進捗状況

事務局より、資料1-2に基づき、説明が行われたのち、以下の意見交換が行われた。

【主な意見】

委員：改正省エネ法の荷主判断基準および輸送事業者判断基準に対しては、CGLとして意見書を提出したが、全日本トラック協会等の他団体が、どのような内容の意見書を提出したか事務局として把握しているか。

事務局：把握していない。

委員：今回の改正省エネ法に限らず、全日本トラック協会や物流連の意見書の内容に目を通したことがあるが、CGLのように検討項目ごとに意見を述べているものではなく、理念を端的に書いているだけだった。

3) 第1期ロジスティクス環境会議の活動成果（予定）について

事務局より、資料2に基づき、説明が行われたのち、以下の意見交換が行われた。

【主な意見】

委員：共通基盤整備委員会が作成した関連法規の体系等も資料2に記載すべきではないか。

委員：4) (2)「各種リサイクル法および廃棄物処理法の課題整理」とあるが、実際は一部分の課題整理を行っているだけであり、タイトルとのギャップがある。

委員：3)「環境負荷の算定方法の精緻化と普及」とあるが、実際の活動は、実行可能性の把握や実施方法の確認といったことであり、“精緻化”という言葉はふさわしくない。

事務局：ご意見をもとに、修正する。

委員：CGLに参加したことで、CGLメンバーはどのような利点があったのか、また何ができるようになったのか、という視点での活動成果も必要ではないか。

- 委員：①環境報告書に最低限これだけは記載しなければならない事項の整理（共通基盤）、②環境報告書に定量的な記載するために必要となる算定方法（環境P）、③環境負荷を下げるためには具体的に何をすべきかというマニュアル（源流管理）、④それでも下げられない場合に参考とする他社の事例や取引条件の問題（省資源）、ということで一応準備はできたのではないかと考える。
- 委員：第4回本会議において、CGLメンバーとして環境報告書に記載すべき項目を提案することも一つの方法だと考える。
- 委員：CGLメンバーにとっては、実務に直結するものがメリットになると思う。したがって、省資源が現在進めている調査はたいへん貴重なものになるのではないかと。
- 委員：家電等でリサイクル券が使われているが、そのお金が解体業者に回ってきていないという話を聞いたことがある。
- 委員：経済的に成り立つ仕組みが必要ではないか。
- 事務局：必要に応じて問題点を整理する。
- 委員：CGL設立前と比べて、環境へ取り組む企業が増えたかどうかは難しいが、環境に関する関心が高まってきていると考える。
- 事務局：CGLのメンバー企業は110社であるが、グリーン物流パートナーシップ会議参加企業が2,600社近くあり、環境負荷低減に向けた裾野が広がっていることは確かだと考える。
- 委員：2004年12月18日に開催したロジスティクスシンポジウムのパネルディスカッションにおいて、経済産業省、国土交通省両省の課長をパネリストとして壇上に上げたのはCGLの成果だと思う。

【決定事項】

- ・本日の議論を受けて、再度活動成果を整理する。

4) 第1期で積み残したテーマおよび第1期末着手のテーマについて

事務局より、資料3に基づき、説明が行われた後、以下の意見交換が行われた。

【主な意見】

(テーマについて)

- 委員：取り組むべき内容が高度になってきている。また、メンバーの能力の限界や転勤等によるメンバーの交代などもあり、テーマを決めてもそれを課題を解決できるかどうか不透明である。
- 委員：メンバー企業の各委員会での参加率を確認してはどうか。また欠席が多い企業については、自社業務多忙なのか、環境会議の活動に魅力がないのか、（環境会議の活動の）負担が重くなるのを避けたいのかについて把握する必要がある。
- 委員：アンケート調査や調査結果の整理であれば、素人でもできるが、具体的なアウトプットを出すには、該当する業界の企業がメンバーに含まれていないと難しい。したがって、まずテーマを決めて、テーマに沿った体制をそろえることが必要ではないか。
- 委員：たしかにアンケート調査は素人でもできるが、アンケート調査票一つを考えても、素人が作成するものと調査に携わっている人が作成するものとは、回答のしやすさ等が大きく違う。
- 委員：メンバーは参加意図として、社会の役に立ちたいという企業もあれば、勉強目的の企業もある。CGLとしてどのような活動を行い、そのためにどのようなメンバーを集めるのかを決めることが必要であると考え。アウトプットを作成するチームと勉強目的のチームという2つのチームに分けて活動するのも一つの案だと考える。
- 委員：活動を普及啓発に絞る方法もある。
- 委員：事務局で複数案を提示して、次回ミーティングで提示していただきたい。
- 事務局：次回ミーティング前に提示し、ミーティングでご議論いただくこととする。
- 委員：どのような活動を行うにしても、常にアウトプットをイメージしておくことが必要だと考え

る。

(J I L Sの体制等について)

委員：環境は大きなテーマになっており、行政も力を入れ始めている。それに伴い、J I L Sの体制も強化すべきではないか。

事務局：今までの“団体”の活動は、“場”の提供だけでよかったが、これからはそれだけでは存在意義はなく「専門家としてのとりまとめ」と「産業界と官との橋渡し」が必要となる。検討したい。

委員：先ほど意見として出たが、メンバーは変更となる可能性があり、最終的にはJ I L S職員がとりまとめを行うこととなる。したがってJ I L S職員の人材育成していくことが必要である。

委員：企業への実務研修なども検討してはどうか。物流の現場を実際に体験することはたいへん意義のあることだと考える。

【決定事項】

・上記意見を踏まえて、事務局で複数案を作成し、次回委員長ミーティング前に提示する。

5) 第2期に向けた今後のスケジュールについて

【主な意見】

委員：議長の交代は形式的な問題であり、環境会議のテーマ及び運営方法を決めて、それをもとにスケジュールを決める必要があると考える。

【決定事項】

・第5回委員長ミーティングで検討する。

・第5回委員長ミーティング 2005年12月7日(水) 15:00-17:00

VIII. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、事務局の徳田は閉会を宣した。

以上